

二〇一九年一月一日 (WEB句会：参加者二六名)

日向ぼこ聖歌洩れくる木のベンチ	菜々
鈍色の空と溶け合ふ枯野かな	かつみ
日向ぼこして極楽にゐる心地	よし子
世界観へと話とぶ日向ぼこ	たか子
恙なく百三歳の日向ぼこ	わかば
存分に紫外線浴び日向ぼこ	うつぎ
石垣に鍬抱き凭れ日向ぼこ	よう子
歳時記を友とし縁に日向ぼこ	やよい
孫の婚まで生きたしと日向ぼこ	あさこ
連山のパノラマとなる大枯野	よし子
徘徊の母を枯野に探しけり	素秀
行き暮れてお風呂が馳走枯野宿	もところ
日向ぼこ生命線を見せ合ひて	うつぎ
横に居るはずの人居ぬ日向ぼこ	はく子
大櫂見えゐて遠し枯野みち	菜々
どこまでも真つ平なる大枯野	明日香
煙立つ枯野の果の一軒屋	三刀
日向ぼこ子守爺やは船をこぐ	なつき

S Lの煙ひろがる枯野かな	小袖
同じ席同じ顔触れ日向ぼこ	宏虎
マウンテンバイク疾駆す枯野原	ぼんこ
色褪せし地酒看板立つ枯野	こすもす
鳶の笛枯野の果ての間遠より	よし女
落暉今銀となる大枯野	わかば
猫に愚痴聞いてもらひつ日向ぼこ	満天

吟行句会みのる選

二〇一九年一月一日 (WEB句会：参加者二六名)